



やまもと たいぞう

山本 泰三 教授

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了
博士(経済学・京都大学)

専門分野 現代資本主義論、経済学方法論

Q1

担当科目を
教えてください。

社会経済学Ⅰ

経済を、社会の中・歴史の中に位置づけて捉えるなら、現代の経済システムは「資本主義」と呼ばれます。この資本主義とは一体何なのか、標準的な理論とは少し異なる視点から考えていきます(このしんどい世の中はどうにかならんのか…それが裏のテーマ)。

社会経済学Ⅱ

資本主義と呼ばれる経済システムは、はじめから現在のような姿だったわけではありません。資本主義とはどのようなものか、どのように変化してきたのか(そして、この世の中はどうにかならんのか)、世界資本主義500年の歴史をダシにして考えていきます。

演習(ゼミナール): 資本主義はどこから来てどこへ行くのか

「本」を、きちんと「読む」ことを重視しています。ゼミ全体では、資本主義の過去・現在・未来を考えさせてくれるような本を輪読しています。ゼミ参加者は、それぞれの興味関心にもとづいて卒業論文のテーマを決め、研究を進めます。

Q2

研究のテーマは
何ですか？

現代の資本主義における価値の生産と分配

イノベーションとか新しい価値をとかなされるけれど、それってどういうことなのか、そしてその現代的な問題から遡行して価値の生産と分配の理論を組み立て直すことはできないか、などと雑なこと考えてるので当然ながら進まず、よそ見ばかりしています。

わたしのおすすめ本

うしろめたさの人類学

著 者 松村圭一郎
出版社 ミシマ社

出版 2017年
ISBN 978-4-903908-98-4 0095

経済のことを考えるのはものすごく大事だと思うのですが、経済のことを経済学だけで考えていたら、変な人間になるような気がします。というわけで、この本はとくに前半がすばらしいです。



Q3

研究者って どんな仕事ですか？

少々かんちがいしてこの世界に入ってしまった。が、2番目にやりたいことを仕事にすべきだとも聞きますので、多分これでよかったのでしょう。いっしょに議論したり考えたりしてくれる研究者仲間や先生方がいてくれたおかげで、ともあれ生き延びています。

Q&A 先生ってどんな人？

リフレッシュしたいときには何をしていますか？

仕事中、お茶かコーヒーを飲む(カップの自動販売機が多い)。夜、ビールを少し(週2、3回くらい?)。

どのような大学生活でしたか？

CDと本ばかり買って、バンドばかりやってみました。あとは、友人と喫茶店で読書し、朝までしゃべったり。

大阪産業大学キャンパスや大学周辺でおススメのスポットは？

夕方の人が少ない時間帯に、パンとコーヒーのセットを買ってJOLIEで少しゆっくりするのが好きです。

先生の1枚



最近よく餃子を食べる。餃子にビール、最高の組み合わせ。幸せにもいろいろありますが、ほろ酔いになって何も考えないのもその一つ(、か?)。音楽を聴いてる時ってアルコールを飲んだ時の脳の状態に似てるらしい。大して飲まんけど。

学生みなさんへ ひとこと

・もはや現役リスナーとは言い難い私は2020年もあまりCDを買えませんでした。が、The 1975 "Notes On A Conditional Form" と、Dirty Projectors "5EPs" が良かったです。

・漫画のことはよくわからない、にもかかわらず島田虎之介『ロボ・サピエンス前史』(講談社)はすばらしかった。2019年の紀伊國屋じんぶん大賞はほんとにこれだったんじゃないかなあ。

・世の中おかしい、わけがわからなくて、ちょっともう無理すと言いたいんですが、だからこそ批判的な分析が必要だと思っています。